一人の犠牲

労災・職業病

数年前、大牟田の労災職業病、公害被災者は、お互いに手を取り合つて団結し、メーデー祭典の壇上から労働者なかまに、この種の被災の恐しさとともに、その撲滅のためたたかいに立ちあがろう、と訴えました。

スモン病患者が大量自殺
拒絶反応呼ぶベンチン
森永ヒ素ミルク中毒非情
今も苦しむ大爆発被災者

いました。その結果、医者からもちったのが、キノホルムだったのです。それを飲んでゆくうち、私はスモン病に冒されていったのでした。

その頃はスモン病に対する正しい認識がなく、世間からは伝染病扱い。そのためスモン病患者のなかから五百人もの自殺者さえでています。私も自殺を考えたものでしたが。

四十五年の八月でしたか、新潟大学の椿教授がはじめて、スモン病の原因がキノホルムにあることを発表し、そのため厚生省がキノホルムの使用販売を中止する措置をとったわけです。その結果、スモン病患者の発生も、ピタリとまりました。

ベンチンで五人も死亡

末藤　三井東圧化学は有害薬品が多く、それが原因する病気が少くないのです。

私が働いておりますのは染粉をつくる工場で、例のベンチンが問題を投げているところです。

問題化したのは昭和四十三年頃業用のヒ素を牛乳に入れるようになったのです。牛乳を腐らせないことと、コストをひきさげ、そしてもうけをふやすことをねらって。

そして森永は、「この牛乳を飲ませれば、頭がよくなる、栄養のよい子どもになる」と宣伝しながら、牛乳の大量販売をすすめました。

そのため森永は〝赤ン坊会〟までつくりまして、そのなかから丈夫そうな赤ン坊を選び「この通り人工栄養で育ちました」、とまで公言しました。

大爆発が生んだCO患者

沖　三池炭鉱でCO中毒患者が大量発生しましたのは、いうまでもなく、昭和三十八年十一月九日のあの大爆発のときでした。

COガス（一酸化炭素）は猛毒で、空気中にわずかにまじっていてさえ、それを吸えばすぐ死んでしまうもので、CO患者はいまも苦しい生活を強いられております。

その症状を一番端的に示したのが、昨年の正月死亡しました宮島重信さん。宮島さんは植物人間と診断され、人間の姿こそ保っていましたが、目はものを見ることができず、耳は音を聞くことができず、ものをいうこともなく、自分の意志で手足を動かすこともなく、脳活動もなく、ただ心臓だけが動いていて、かろうじて命をささえていたわけです。

とにかく呼吸によって体内に吸いこまれましたCOガスは、血液しません。せめてできるだけのこと

鉱の坑外で働いておりますが、元は坑内仕繰工でした。

仕繰工のときです。まさかと思いましたが、私は三年ほど前、五百二十メートル坑道で働いていて、熱中症のため倒れたんです。

三十二～三十三度という高温箇所で、その日私はベルト側の柱打ちをやったあと、坑外にあがったところで、全身にケイレンが起こり、倒れてしまい、そのまま、荒尾の白鳩診療所に運ばれて、入院を余儀なくされたのでした。

苦労の遺族

溝口　私は被災者ではなく、三池大災害遺族の一人です。

私は、会社の保安サボで二人の子どもを殺されました。

その年の十二月上京。今後のことを話し合うため三井鉱山本社をたずねましたとき、当時の栗木社長はいったもんです――「大変なことをしてすみませんでした。二度と災害をくり返すようなことはしません。せめてできるだけのこ

家庭生活破壊はどこも同じ

石原　長期療養患者をかかえた家庭の主婦でございます。

うちの主人は、そとから見るばかりではCO患者とはわかりません。

私のところでもまた、排便や排尿をする場合など、私が主人を便所につれていって、便器のうえに「ハイ、こうして」とかがませ、それをくり返しながら、排便することを教えなければなりませんでした。

たとえ、ただ今入院中の久留米大学付属病院から試験外泊で家に帰ってまいりましても、私がフロにつれてゆくわけにゆかず、小学五年生の男の子がつれてゆかなければなりませんでした。

主人がCO患者にされたばかりに、ほかの親子がどれほど苦労してきたか、わかりません。

末藤　家庭生活の破壊は、ベンチデン中毒も同じです。

そこで市の保健所にゆきまして後遺症に苦しんでいる子どもがいるはずだから教えてくれないか、とたのみますと、ここではどうしても教えてくれず、結局足をたよりに私がひとりで、けんめいにさがして回りました結果、ヒ素ミルクに中毒した子どもを二十二人発見することができたのです。森永と聞いただけでムカムカします。

石原　私たちも、「三井」と聞いただけでムカムカです。

その対策とたたかいは？

大眉　では、不可欠な対策とたたかいはどうなっているでしょうか。三池のCO患者と遺族の場合は、たとえ不満足なものではあっても、組合として要求もしたたかっている点、不安なうちにも一面心強さもある、と思うのですが。

山根　昭和三十九年といえば大分遅れてのことでしたが、とにかく全国じん肺患者同盟と、現地大牟田で三池じん肺患者の会が結成されまして、完全補償とじん肺の撲滅をめざすたたかいが始まりました。

でもその組織状況は申しますと、労働省統計でさえ、じん肺患者が全国で七千五百人いるのに、同盟員はわずかに二千七百人。

少しずつですが、年々補償も拡大してまいりました。

坂本　スモン病としましては、まず昭和四十六年に東京で、東京弁護団による第一回訴訟が実現しますと、次に私たちの福岡県

対策補償などこれまでの成果としましては、まず休業補償が実現しました。これは在宅者の場合問題はないのですが、退職後の人で、たとえば医師の診断が「仕事はできる」とされても、本人の体が実際にそれを許さないとき労使で交渉して措置をきめる、というわけです。今、公傷認定を受けていない人で、退職後の二人の人がこの補償を受けています。

そのほか、治療費、検査手当、通院費などが出ています。

これも退職者に当てはまることですが、膀胱鏡検査に際しては、それがひどく痛いものですから、俗に〝いたか料〟というものが一回に二万一千円支給されます。合化労連でもまた、〝ベンチデン対策会議〟をつくって、全国的な視点から対策をすすめております。

中川　私たちの場合も守る会もでき、全国的に世論も高まりましたおかげで、ヒ素ミルク中毒の後遺症に苦しむ子どものあることが無視できなくなりました森永資本は、やがて守る会、患者といっしょになって光協会をつくりました。はじめて、補償金も支給するようになったのです。

でも、死んでいった子どもたちには今もって何の音沙汰もございません。ですから私は、「死んだ子どもの命をどうしてくれるのか」と、個人でマッチなどつくって配ったりしながら、森永製品の不買運動をはじめました。それが痛かったのでしょう、森永の常務がわざわざ私に会いにやってきたんですが、問題はまだまだ解決してはおりません。

広げてゆこう――たたかいの火連帯の輪

大眉　労災、職業病、公害による被害が、どれほど犠牲の多いことか、多くの場合、それはすでに返ってこないことでさえある。その実態がお話を聞いてよくわかりました。完全な補償を獲得するとともに、二度とこのような被害をくり返すことのないように被害責任者の資本や国を追及することがより大切なことだと思います。

それにつきましても、怒りをこめて、最後に一つ決意を出し合いまして、相互の間の連帯を強め、たたかいをさらに前進させたい、こう思いますが……。

小川　一昨年、三井の災害責任を追及するために、私たちは裁判闘争を開始しましたが、初めの頃は何から手をつけてよいかまったくわかりませんでした。

でも少しずつ原告団の団結を固めながら、公判を迎えるたびにビラを配っては市民や労働者へのアピールや、公判終了後デモをやって支持していただくよう訴えたり、さらには森永ヒ素ミルク子どもを守る会総会や、スモン裁判公判などに代表をおくったりして、それぞれの活動に学び、また連帯を強める活動を積みあげてきております。今、CO患者・遺族守る会組織も少しずつ拡大しており、この間は大阪の高槻市から、職業病対策会議と地区労で編成されましたオルグ団も迎え、交流し、学び合うことができました。

このように、大災害裁判原告団としましては少しでも連帯の輪を広げ、たたかいの火を広げる努力をつづけてゆく決意です。それとそがまた、三池大災害裁判勝利に向けての不可欠な条件だ、と思っているからです。

永江　私たち遺族会は百六十三人です。あのとき会社が出した弔慰金がたった四十万円。

同じ日に国鉄鶴見駅（神奈川県）で列車の三重衝突事故が起こりここでも二百人近い人が殺されました。そのとき国鉄がおくりました弔慰金は、赤ン坊に二百万円大人に八百万円でした。

それに比べますと三池炭鉱の弔慰金は、まさに赤ちゃんの片腕がつもないわけで、資本が私たち炭鉱労働者の命を、いかに無視しているかよくわかると思います。

それどころか資本は私たち遺族を、抹殺してしまおうとやっきになってさえいます。

中川さんが、二度とこんな悲しい運命の子どもを出してはならないとおっしゃいましたが、私たちも「遺族は自分たちでおしまいにしよう」とがんばってまいりました。それにもかかわらず、会社は依然として災害をひき起こし、労働者を殺しつづけております。

いかに三井の責任が重かということを、事実がつきつけているわけで、私たちは絶対に勝つまでたたかいつづけてゆく覚悟を固めているところです。

山根　私たちの場合重大な問題は、政府が長期傷病給付制度を口実を設けて廃止してしまおう、としていることです。そのほかにも問題はありますが、自民党政府はいかにして、一人でも多くの患者を打ち切るか、虎視たんたんです。これは大問題です。みんなが反対して立ちあがるべきだ、と思いますが。

中川　政府と資本は、絶対に許すことができません。森永ヒ素ミルクで被災しました二番最後の子どもが救われるまでは、私もまたたたかいつづける決意です。

大眉　森永ヒ素ミルク被災の皆さんといい、スモン病患者の皆さんといい、いわば無からたたかいに立ちあがられたもので、とりわけ学ぶべき点が大きいことがよくわかりました。

これからはいっそう手を取り合いまして、このような悲劇の撲滅をめざし、たたかいを強めるよう努力したいと思います。三池大爆発十三回忌を迎えるにあたりまして、このことを誓い合って終りといたします。長い間ありがとうございました。

×

この座談会記事は紙面の都合から、大分割愛しなければなりませんでした。おわびいたします。